

伊丹ルーテル教会 降誕節第一主日礼拝

2020年12月27日

前奏：

招きのことば：詩編 116 編 1-7 節

私は主を愛する。 主は嘆き祈る声を聞き 私に耳を傾けてくださる。
生涯、私は主を呼ぼう。死の綱が私にからみつき 陰府の脅威にさらされ
苦しみと嘆きを前にして 主の御名を私は呼ぶ。「どうか主よ、私の魂をお救いください。」
主は憐れみ深く、正義を行われる。私たちの神は情け深い。
哀れな人を守ってくださる主は 弱り果てた私を救ってくださる。
私の魂よ、再び安らうがよい 主はお前に報いてくださる。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たちのために救い主をお送りくださいました。クリスマスにお生まれになって人となってくださった神の独り子、イエス・キリストによって、私たちは罪びとを赦し神の子とするあなたの圧倒的な愛を知りました。クリスマスは神様の愛の実現した日です。神様、今朝もともに礼拝にあずかりみ言葉をいただくことを心から感謝をいたします。

もうすぐ新しい年を迎えます。本年は様々な思いがけないことに出くわしてまいりましたが、ここまで私たちを導いてくださって、大きな喜びをあたえてくださり、心から感謝をいたします。今朝、新たにいのちをいただき、私たちは喜びに満たされて新しい一歩を踏み出します。どうぞ新しい一週、あたらしい年も、未熟な私たち一人一人を顧みて、あなたからの導きとお支えによって歩み切ることができますようにと祈ります。神様の恵みによって人々を赦し、神様のまことをもって正しく歩いていくことができますように、あなたの証し人として人々にイエス様の福音をお伝えすることができますように、そして、互いに愛し合い、高めあう年となりますように。

新型コロナ・ウィルスの感染はまた拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ガラテヤ 4章 4-7節

しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。あなたがたが子であることは、神が、「アツバ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。

福音書朗読：ルカによる福音書 2章 22-40節

さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからである。また、主の律法に言われているとおりに、山鳩一つがい、家鳩の雛二羽をいけにえとして献げるためであった。そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり この僕を安らかに去らせてくださいます。

わたしはこの目であなたの救いを見たからです。

これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、

あなたの民イスラエルの誉れです。」

父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするためにと定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。——あなた自身も剣で心を刺し貫かれます——多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

また、アシェル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとっていて、若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。

親子は主の律法で定められたことをみな終えたので、自分たちの町であるガリラヤのナザレに帰った。幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。

讚美歌 111 番

- 1 神の御子は今宵しも ペツレヘムに生れたもう いざや友よ、もろともに
 <繰返し> いそぎゆきて拝まずや。いそぎゆきて拝まずや。
- 2 おとめマリヤ母として 生まれししみどりごは、まことの神、きみの君、<繰返し>
- 3 「神にさかえあれかし」と、みつかいらの声すなり。地なる人もたたえつつ、<繰返し>
- 4 とこしなえのみことばは 今ぞ人となりたもう。待ち望みし主の民よ、
 おのが幸をいわわずや。おのが幸をいわわずや。 アーメン

説教：「異邦人を照らす光」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

一年のおわりの主日、またクリスマスをご一緒にお祝いした今、神さまは何をお語りくださっているでしょうか。第1にまことの神さまを礼拝しつつ歩む私たちに、神さまは必要なみ言葉を与えて導いてくださるということです。この一年はそのような一年でした。新年を始めるときに誰が世界の今の状況を予想できたでしょうか。これまで出会ったことのない感染症が社会を揺るがし続けました。昨日までの経験や知識が役に立ちません。明日がどんな日になるのか確かな予定が立ちません。生活を左右する番狂わせが続きました。世界が苦しんでいます。つらい、不安な日々です。これまで当たり前のように信頼してきた健康、経済、政治、人の力がいかにもろく、微妙なバランスの上に成り立っているものなのかを思い知ることになりました。その中でかわらぬみ言葉が語られ続けました。神さまのみ言葉は本当に信頼できることを経験してまいりました。神さまは聖書のみ言葉をとおして私たちに語り続けてくださいました。聖書のみ言葉に聴き、み言葉によって支えられてきました。イザヤ書 30 章 21 節にあるような

経験です。「また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで、『これは道だ、これに歩め』と言う言葉を耳に聞く。」当時の旧約聖書の民はアッシリヤという国が恐ろしくてエジプトに頼ろうと考えていました。神さまは預言者イザヤを通して15節で語られました。自分たちの知恵や打算で動かないで神さまに「立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われ、落ち着いて、信頼すれば、あなたがたは力を得る」のです。アッシリヤは滅びに向かっている、エジプトは頼りにならない、と教えてください。恐れに刺激されてそそっかしく行動を決めるのではなく、神さまに立ち返ると与えられる静かな安心に基づいて、落ち着いて信頼していくとき神さまが力を与えてくださるのです。

マリヤとヨセフはベツレヘムで生まれたイエス様をつれて、決められていたようにエルサレムの神殿に行きました。レビ記12章6-8節の主の律法に定められている通りに感謝のいけにえをささげるためでした。雄羊をささげるだけの余裕のない家庭の場合に許されている山鳩一つがい、家鳩の雛二羽をささげるということは、ふたりは裕福ではないことがわかります。ちょうどマリヤとヨセフがイエス様のためにエルサレムの神殿に来た時に、聖霊に導かれてそこに来たシメオンという人に出会いました。シメオンは幼子イエス様を腕に抱き、神さまに賛美をしながら、イエス様がすべての人のための救い主で、異邦人の光、イスラエルの誉れであることを歌いました。マリヤとヨセフは突然の出来事に驚きました。けれども公の聖なる場で語られたことばを心に刻みました。自分たちが育てていくこのイエス様が、世界の救い主であるということを感じる信仰が与えられました。天使によって神さまのこどもをみごもることを告げられ、結婚をし、おなかに赤ちゃんを宿しながら人口調査のために遠いベツレヘムに旅をし、馬小屋で出産したマリヤとヨセフは、ちょうど必要なときに、とてもタイミングのよい助けを受けました。このように神さまは私たちを導いてくださいます。イエス・キリストを信じて歩む毎日の平安がここにあります。イエス様を信じて歩む人は、決してすべてのことを知っていて、知恵に満ちた生活を送る、完成された人になっているのではないのです。そうだったら私たちみんな未熟であることを恥じなければなりません。そうではありません。イエス様を信じて歩む人は、すべてを知って知恵に満ちたみ言葉によって導いてくださる神様の子どもとされているのです。未熟な私たちですが、自分ではなく父なる神様に信頼して歩むことができます。ここに私たちのために生まれてくださったイエス様が、そのいのちをかけて開いてくださった救いの道があります。新しい年も、毎週語られる礼拝説教を聴きながら、み言葉によって導かれて歩むことを大切にしましょう。

第二に教えられることは、シメオンの語った福音が、イエス様を中心とした福音であったことです。神さまの愛を漠然と教える福音ではなく、神さまがその愛を具体的に現わしてくださったイエス・キリストが福音の中心です。シメオンはマリヤとヨセフにこの赤ちゃんとして生まれたイエス様が救い主であると知らせ、イエス様はやがて人々の心をあらわにして、イスラエルの人々の反発を受けることや信頼されることを預言しました。また、親として心を刺し通さ

れるような経験もすることになるとも言われています。神さまは若いマリヤとヨセフにシメオンを通して神の福音のみ言葉を語り、やがてイエス様が人々に捨てられ十字架でのちを与えらることを通して、その心を剣で刺しぬかれるようなつらさは、それによって世界の救いになるため、罪のゆるしと永遠のいのちがイスラエルにも異邦人にも与えられるためであることを教えてくださいました。そしてマリヤとヨセフは神殿で聞いたその知らせを信じて歩いていきました。マリヤはその後、十字架でわき腹を槍でつかれて死んでいくわが子をそのみ言葉を支えにして耐えて、見届けることができました。すべての人の救いのために死なれたイエス様を、異邦人の光、イスラエルの誉れとして信じることができました。

私たちの毎日の生活は聖書のみ言葉によって導かれます。それはイエス・キリストを救い主として受け止め、また主として従っていく歩みです。聖書のみ言葉の中心はイエス様です。原点から離れそうになると、聖書のみ言葉がイエス様のもとに導き返してくださいます。道がわからないとき、神さまの知恵でリアルタイムでそのときそのときにふさわしく導いてくださいます。力が必要なとき、自分の力とは比べ物にならないほど信頼できる神さまの力で満たしてください。勇気と忍耐が与えられます。すべてのことがわからなくても、神さまはみ言葉によって道をしめして導いてくださいますから、安心して、信頼して、神さまをおそれ人を愛して、威厳と慎みをもって歩むことができます。

ですから、私たちが未熟であることを実感しているなら、むしろ喜びましょう。なぜなら、本来頼りにならない自分の経験や知恵を羅針盤にして歩むという過ちをおかさないで、すべてをご存じで御子イエス様をお与えくださるほど私たちを大切にしてくださいる神様を信頼することができるのですから。イエス様によって、私たちの生まれながらの不遜で自己中心の性質も、私たちが恥じるすべての罪も、神さまの御前ではすっかり赦されました。神さまが与えてくださる新しい命によって、神さまに導かれて毎日を誠実に歩いていきます。イエス様を救い主と信じることで、神さまを信じるスケールの大きな心が与えられ、目の前の人々を大切にしてい

く焦点のあった毎日が導かれます。

さて、エルサレムの神殿でマリヤとヨセフはもう一人の人と出会いました。アンナは84歳、救い主を待つ喜びがこれまでの元気の源でした。またエルサレムの人々もそんなアンナを支えてきました。彼女はおそらく60年ほどのあいだ、神さまのみ言葉の語られるところを離れずに、祈り仕えて歩んできました。年末の今日、神さまがお語りくださる第3のことは、アンナの生涯に表れているように、待ち望むことの長い人生であっても、イエス様をまって暮らす毎日は幸いな毎日だということです。若いときにつれそったご主人と死に別れましたが、生涯、神さまの祝福に満たされて歩んできました。神さまは決して私たちを見放さず、見捨てることはありません。イエス様を待つ生活は信じない者にはわからない豊かな生活だったのです。

クリスマスの夜、町はずれの野原で羊の番をしていた無名の羊飼いたちのところに天使が送られて、イエス様の誕生を知らせました。彼らは羊を連れて飼い葉おけに眠るイエス様に会いました。そしてその喜びを人々に分かち合い、賛美をしながら仕事にもどっていきました。同じ喜びがアンナにも与えられました。赤ちゃんのイエス様と出会い、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話しました。

クリスマスは喜びの日です。私たちの罪を赦して新しいいのちを与えてくださるという神さまの約束が救い主イエス様のお誕生によって現実の出来事として明らかにされた日だからです。この喜びの日に、人々から忘れられていたような羊飼いたちにも、長い長い人生の大部分を神さまの救いを待ち望んで暮らしてきたアンナにも、イエス様とお出会いする大きな大きな喜びが与えられました。

シメオンは、今救いを見た、今救い主にお出会いしたからわたしは安らかに去ることができると思いました。初代の教会は迫害や困難の多い教会でした。シメオンのこのことばをいつも礼拝のなかで覚えて口ずさんできました。「主よ、お言葉通りわたしを安らかに去らせてください。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。」というみ言葉です。初代の教会から私たちに至るまで、礼拝でみ言葉を聴いて救い主に会おうとき、安らぎをもって新しい一週の歩みに押し出されてきました。新しい一年の歩みに押し出されてきました。何が待っているか、予想のつかない将来にむかって、救い主に会った喜びと、み言葉の確かな導きへの信頼によって、私たちもしっかり歩みだすことができます。たとえその週の内に主のみもとに召されることがあっても安心して去らせていただく平安をいただいています。

そのイエス様がどのような歩みを経て十字架への道をたどられるか、まだこの時点では誰にも詳しくは明らかにされていませんでした。マリヤとヨセフは神様から遣わされたシメオンから神様のことばを聞いて、イスラエルの人々が反対し、親としても剣で刺しぬかれるようなことが待っていると知りました。イエス様がお召しになった弟子たちも、イエス様がお話になる十字架と復活のことについて実際にそのことが起こったあとまで深く理解することはできませんでした。それでも歩みにあわせてその都度導いてくださる神様に信頼して、喜んで歩いていったのです。

クリスマスにあなたは神様の御手の中にあらためて生まれました。クリスマスにあなたの心のあらためてイエス様が生まれてくださいました。罪赦されて与えられたあなたの神さまにあるいのちは、神さまのみ言葉によって育てられ、タイミングのよい神さまの導きを得て、神さまとの交わりのなかで永遠のいのちを受けていくこととなります。クリスマスおめでとうございます。また、新しい年も主のみ言葉に聴いて歩ませていただきますように。

「愛する神様、聖書のみ言葉によって導かれる幸いをお与えくださって感謝をいたします。本年はさまざまなことがありました。そのなかで、私たちは神様に会いなおすことができました。イエス様を信じなおすことができました。新しい年も未熟な私たちですからどうぞみ言葉によって導いてください。時を得た助けを神さまからいただきながら、神さまへの感謝と情熱をもって、そして目の前の人々を大切に歩む毎日とさせてください。罪赦され神の子とされた喜びに生きる毎日を導いてください。教会の近くにお住いの方々、私たちの大切な家族、親族、友人にもこの喜びを味わっていただけるように、導いてください。主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讃美歌 499 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 御霊よ、降りて むかしの如く、くすしき御業を現わしたまえ、
 <繰返し> 代々にいますみたまの神よ、今しもこの身にみちさせ給え。
- 2 御霊よ、降りてめぐみの雨に かわける心を潤おしたまえ。<繰返し>
- 3 御霊よ、降りて けがれを潔め、とうとき救いにいらしめ給え<繰返し>
- 4 御霊よ、降りて かよわき我を きよけき力にとましめ給え。<繰返し> アーメン。

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああ御栄えよ。アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。アーメン

後奏